

TEMPUS テンプス

2021年(令和3年) **73**号

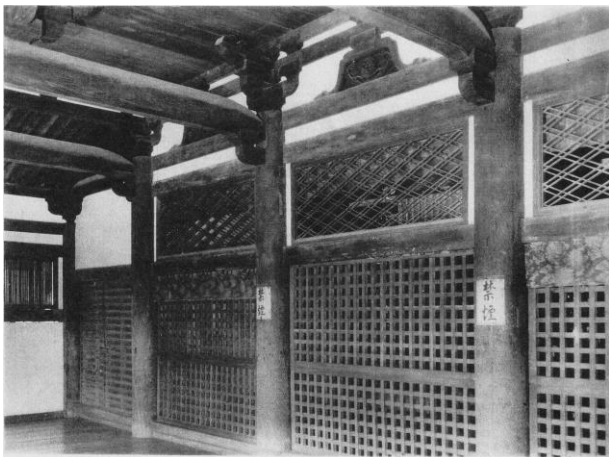
国宝 孝恩寺観音堂



正側面全景〈昭和4(1929)年以前撮影〉



側背面全景



内陣正面境界



背面外陣

も く じ

国宝 孝恩寺観音堂の歴史と特長

第121回かいづか歴史文化セミナー

講演会「ぼっかんさんの紀北遊覧をめぐる」

／ 小学校巡回展示 「東洋の魔女と1964年東京オリンピック」

貝塚みずま「お夏清十郎」歴史ガイド／はくふだまつり2020～貝塚場所～

まちの駅 かいづか「貝塚の民話」絵本原画展

／ 清名台(せいなだい)にある曲線を描く空き地―空中写真から見た不思議―

古文書講座―市内に残る身近な古文書―「ぼっかんさん紀の路に行く」

文化財講座・セミナー・展示

(文化財収蔵庫が造られる前は重要文化財の
仏像群が堂内に安置されていました)

※写真は、『大阪府文化財図説 建造物篇第3』
(1962、大阪府教育委員会)掲載図版より転載。

国宝 孝恩寺観音堂の歴史と特長

本市木積（こつみ）にある国宝孝恩寺観音堂（通称釘無堂（くぎなしどう））は、令和元年9月から令和4年7月までの予定で、現在保存修理事業が進められています。今年度の現地での工事作業は、前号で紹介したとおり、しばらく中断していましたが、令和3年1月中旬より修理工事が再開されています。今号では、貝塚市唯一の国宝である孝恩寺観音堂の歴史とその建造物としての特長について紹介します。

木積観音寺と孝恩寺観音堂

木積の地名については、奈良時代の僧行基（ぎょうき）が畿内（きない）に四十九院を建築する際に、木島郷（きのしまごう）の杣山（そまやま）から木材を伐採した集積地であることに由来するとされています。その行基が、神亀3（726）年に木積の地に建立したとされる寺院が深谷山観音寺で、その境内に建立されたのが観音堂です。観音寺は、中世の戦乱や天正13（1585）年の羽柴（豊臣）秀吉の紀州攻めで兵火にかかり荒廃し、江戸時代には、観音堂と仏像のみが残りました。観音寺は明治22（1889）年に廃寺（はいじ）となりますが、観音堂は明治36（1903）年に古社寺保存法により特別保護建造物に指定された後、大正3（1914）年に浄土宗寺院孝恩寺に合併され、昭和4（1929）年に国宝保存法の制定により（旧）国宝となりました。戦後、文化財保護法の制定にともない昭和28（1953）年に改めて（新）国宝に指定され、現在は孝恩寺の本堂となっており、収蔵庫に安置されている重要文化財の仏像および板絵（右上写真）とともに保存されています。



重要文化財 板絵着色天部像
孝恩寺蔵

背面に「神亀三年」の年号や「行基」という墨書（ぼくしょ）が残っています。

孝恩寺観音堂の歴史

孝恩寺観音堂の建築年代を明確にする史料は存在しませんが、様式上から鎌倉時代後期の建築とされています。その後の変遷については、今回の保存修理でも確認された大永7（1527）年銘の屋根瓦と安永4（1775）年の棟札（ともにテンプス71号で紹介）からは室町時代末期と江戸時代中期に修理が、また大正5（1916）年に解体修理が行われたことが知られるだけです。しかし、今回の保存修理にともなう屋根瓦の詳細調査により、屋根に葺かれている約15,500枚の瓦のうち、平安時代後期の瓦（右写真）が複数枚確認できたことから、観音寺および観音堂の歴史は、少なくともその時代まではさかのぼることができると考えられます。



観音堂に葺かれていた平安時代の軒丸瓦
（中央に観音菩薩の梵字「サ」が入ります）

孝恩寺観音堂の特長

孝恩寺観音堂は、正面（桁行／けたゆき）5間（けん）（＝約9m）、側面（梁間／はりま）5間の大きさの建物で、周りに縁（えん）をめぐらします。

軸部に太い円柱（まるばしら）を用いて建てられた寄棟造（よせむねづくり／大棟の両端から四隅に降り棟が降下している屋根の形式）で向拝（こうはい／社寺建築で屋根の中央が前面に張り出した部分）のない低い外観からは、奈良時代以来の伝統的な和様（わよう）建築の素朴さが感じられます。また、鎌倉時代後期の葺き方としては珍しい行基葺（ぎょうきぶき）の屋根は、行基瓦とよばれる丸瓦を1枚ごとにいくぶん重ねて葺き上げる手法から力強い趣を醸し出すとともに、行基開創の伝承と重なる古風な印象を受けます。

正面の中央3間と背面中央に出入口を設け、禅宗様（ぜんしゅうよう）の棧唐戸（さんからと／写真①）を吊り、正面両端と側面前寄りの3間は縦棧（たてさん）をはめた和様の連子窓（れんじまど／写真②）とします。軒は垂木（たるき）を二段とした二軒（ふたのき／写真③）、正面の柱間は透彫の本蓼股（ほんかえるまた／写真④）、側面の柱間は間斗束（けんとうつか／写真⑤）で飾り、柱上の組物は三斗（みつど／写真⑥）とします。



観音堂の正面および側面

また内部の構造は、前方2間を外陣（げじん）、後方3間を内陣（ないじん）とし、内・外陣の間は菱格子欄間（ひしごうしらんま／写真⑦）と蔀戸（しとみど）で仕切ります。外陣は4本の柱を省くことですっきりとした空間とし、断面の丸い大仏様（だいぶつよう）の虹梁（こうりょう／写真⑧）を架けてアクセントを与えています。また、内陣は正面中央3間、側面2間で、後寄りに本尊を安置する厨子（ずし）を設けています。天井は、母屋（もや／建物の中心部分）は禅宗様の板張の鏡天井（かがみてんじょう／写真⑨）、庇（ひさし）は垂木を見せた化粧屋根裏（けしょうやねうら／写真⑩）とします。



観音堂内部の外陣

画面左が堂の正面、右が内陣になります。菱格子欄間の下の蔀戸（上下に開閉）は内陣側に架けられているため、写真では確認できません。

このように、孝恩寺観音堂は伝統的な和様建築の細部に、鎌倉時代初期に中国からもたらされた新たな建築様式である大仏様や禅宗様を効果的に取り入れていることから、鎌倉時代後期の建造物であると考えられています。

特別展「国宝孝恩寺観音堂(釘無堂) 令和の大修理Ⅰ」

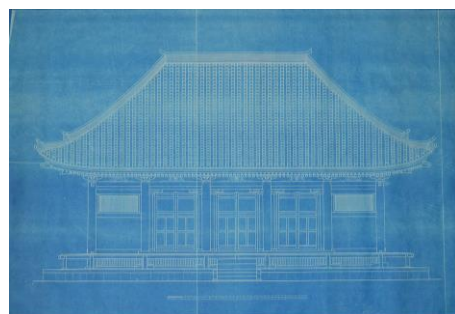
国宝孝恩寺観音堂の保存修理事業について、屋根瓦を中心とした関係資料を展示します。

会 期 令和3年3月6日(土)～4月18日(日)

会 場 貝塚市郷土資料展示室(貝塚市民図書館2階)

観 覧 無料

休室日 毎火曜日、3月20日(土)、31日(水)



第121回 かいづか歴史文化セミナー

講演会「ぼっかんさんの紀北遊覧をめぐって」

令和2年度貝塚市郷土資料展示室企画展「江戸時代の人びとの旅行記～古文書から見た様々な観光名所～」(9月19日(土)～11月22日(日))の開催にちなんで、11月1日(日)午後1時より、市民図書館2階視聴覚室にて、願泉寺文書を調査されている帝塚山大学名誉教授の鶴崎裕雄さん、研究者の近藤孝敏さん・大利直美さんの3名の方にご講演いただきました。

講演では、願泉寺ト半(ぼくはん)家一行が紀伊国北部地域へ旅行した江戸時代の記録「紀の路御遊覧日記」(きのじごゆうらんにつき、和歌山県立文書館蔵)についてお話しいただきました。

最初に、近藤さん、大利さんから日記に書かれている旅の行程、和歌や俳諧などの文学的要素も合わせ、当時の名所を解説していただきました。続いて、鶴崎さんの方から、この記録の歴史資料としての魅力についてお話しいただきました。そして最後に、旅に同行したト半家とその家臣団、女性たちについて、人物に焦点をあてた解説をいただき、講演会は終了しました。参加人数



鶴崎さんの講演に耳を傾ける
参加者のみなさん

を限定して初めて行った講演会となり、当日は27名の方にご参加いただきました。

小学校巡回展示 「東洋の魔女と1964年東京オリンピック」

令和2年9月25日(金)から12月16日(水)にかけて、昨年度の「貝塚の古墳」に引き続き、今年度も市内11小学校で巡回展示「東洋の魔女と1964年東京オリンピック」を開催しました。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大のため2021年に延期になった2020東京オリンピック・パラリンピック開催にちなんで、昭和39(1964)年に開催された東京オリンピック、中でも貝塚市とゆかりの深いニチボー貝塚バレーボールチームについて、当時の雑誌で丸ごと特集となった『毎日グラフ』臨時増刊号や金メダルのレプリカ、貝塚市内を駆け抜けた聖火リレーの写真などを展示しました。



熱心に展示を見る子どもたち

また、1964年東京オリンピックに合わせて完成した東海道新幹線のリーフレットの展示では、開通当初に「ひかり」が4時間かかっていた東京一新大阪間を、現在の「のぞみ」は、2時間22分で結んでいるといったことなどについて現在と比較して紹介しました。

子どもたちからは、当時の金メダルの図柄を貼ったレプリカや0系新幹線の写真に興味を持って、熱心に展示を見てくれるなど関心を集めました。

貝塚みずま「お夏清十郎」歴史ガイド

令和2年10月16日（金）、すいてつ沿線魅力はっしん委員会と市教育委員会の共催で、市立山手地区公民館において、イベント ～歌と語りで綴る愛物語～貝塚みずま「お夏清十郎」を開催しました。

このイベントでは、第1部「世界の様々な愛を歌う」と第2部オペレッタ（音楽劇）貝塚みずま「お夏清十郎」の合間に、恋人の聖地「水間寺愛染堂」に伝わるお夏清十郎伝説の歴史ガイドを社会教育課職員が行いました。歴史ガイドでは、一般に知られる物語とは異なる、貝塚市水間に伝わるお夏清十郎の伝説の内容を紹介し、この伝説にまつわる水間寺の観光スポット「愛染堂」や「お夏清十郎の墓」を紹介しました。歴史ガイドの内容は、まちの駅 かいづか（貝塚市観光案内所・南海本線貝塚駅改札口前）、社会教育課、郷土資料展示室、歴史展示館などで配布している資料をご覧ください。



はくふだまつり2020～貝塚場所～

令和2年11月23日（月）、貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）及び市民庭園「おもいでコットン庭」において、「はくふだまつり2020～貝塚場所～」（かいづか家族の日関連月間事業）を新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から定員を設けて、感染対策を行い、参加者の方にもご協力いただいて開催しました。

市民庭園では、泉州地域の歴史や文化を紹介する博物館カード「はくふだ」を配布している博物館のうち3館にご協力いただき、大阪府立弥生文化博物館「木包丁（きぼうちょう）をつくろう！」、泉大津市立池上曾根弥生学習館「星形ペンダントをつくろう！」、泉南市埋蔵文化財センター「輪投げではくふだゲットだぜ！」のワークショップを開催（写真左から順）し、参加された皆さんに「はくふだ」を配布しました。

また、歴史展示館では、館内のミッションのクリアで「はくふだ」を配布したほか、本市のイメージキャラクター「つげさん」の工作やぬり絵を楽しんでいただきました。

晴天のもと、午前と午後あわせて89名のご家族の方にご来場いただきました。



まちの駅 かいつか「貝塚の民話」絵本原画展

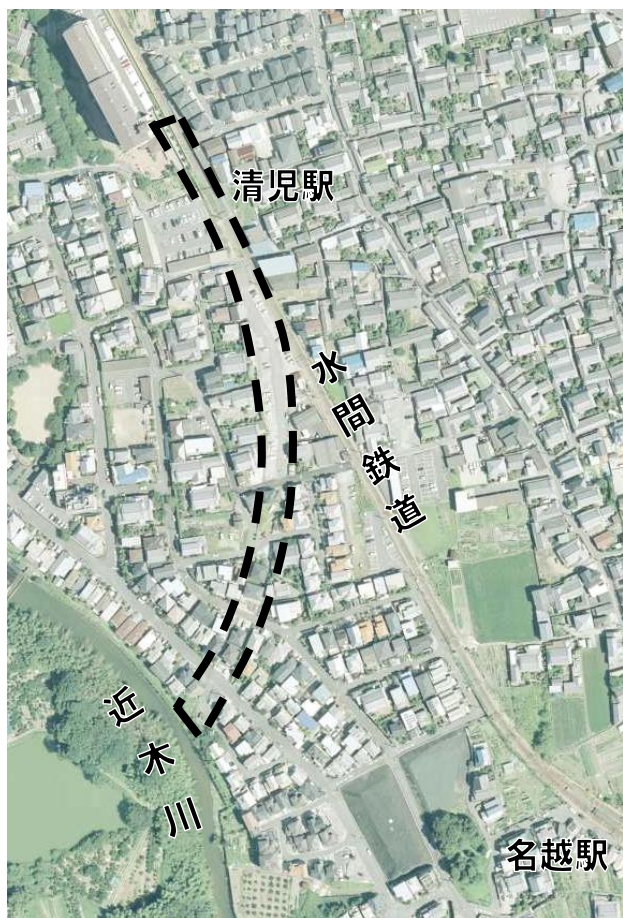
令和2年10月23日(金)から12月10日(木)にかけて、まちの駅 かいつか（貝塚市観光案内所・南海本線貝塚駅改札口前）において、昨年度に引き続き「貝塚の民話」絵本原画展を開催しました。

展示した絵本原画作品は、大阪府立貝塚高等学校3年生の生徒さんが、貝塚市教育委員会の依頼で制作した「貝塚の民話」を題材にした作品です。展示では、週替わりで「万病（まんびょう）地蔵」、「津田のみい（蛇）さん」、「黒岩の織り姫さま」、「岸の姫松」の4つの民話の絵本原画19作品を展示しました。



展示作品のうち「黒岩の織り姫さま」については、本市教育研究センターを中心に組み立てている「貝塚学」の創造事業の一環として教材化し、市内小学校3・4年生を中心に配布されました。この教材は、市役所や社会教育施設等でも配布していますので、ご覧ください。

◆清名台（せいなだい）にある曲線を描く空き地－空中写真から見た不思議－



紀泉鉄道の線路が通る予定だった土地
（点線枠内、すでに一部住宅が建てられています）

※国土地理院空中写真を加工して使用

左の空中写真は平成19（2007）年に貝塚市の清見（せちご）・名越（なごせ）一帯を撮影したものです。近木（こぎ）川と水間鉄道に挟まれた地域は昭和50（1975）年から清名台住宅として水間鉄道株式会社の手により分譲が始まりました。その一角、点線で囲まれた曲線の土地は当初宅地ではなく、鉄道用地として残されていました。この土地が完成することなく廃止となった「紀泉（きせん）鉄道」跡の一部です。昭和2（1927）年に立てられた計画によると、水間鉄道清見駅を起点とし、現在の熊取町役場の西側を通り、温泉のある犬鳴山を抜け、粉河（こかわ、現和歌山県紀の川市）までの総延長21kmを走る鉄道となるはずでした。

すでに計画は断念され、鉄道用地も売却が進められています。撮影から14年が経過した現在では、新しい戸建て住宅の建築が進められ、鉄道用地だった面影も徐々に薄れつつあります。今回紹介した場所を含め未成線「紀泉鉄道」の痕跡をめぐる見学会を今後企画してまいりますので、その際はぜひご参加ください。

古文書講座

ー市内に残る身近な古文書ー

◆ぼっかんさん紀の路に行く

新型コロナウイルス感染対策として令和2年10月7日・14日・21日の水曜日と、10月9日・16日・23日の金曜日の2グループに分けて定員・回数を少なくして、「ぼっかんさん紀の路に行く」と題し、令和2年2月以来8カ月ぶりに古文書講座を開催いたしました。



古文書解読に集中する受講者のみなさん

この講座は、郷土資料展示室企画展「江戸時代の人びとの旅行記～古文書から見た様々な観光名所～」(令和2年9月19日(土)～11月22日(日))の展示資料「紀の路御遊覧日記(きのじごゆうらんにつき)」(和歌山県立文書館所蔵)を記した、貝塚寺内町(じないまち)領主で願泉寺(がんせんじ)住職のト半家(ぼくはんけ)の家来「呑海軒(どんかいけん)」の筆を通して、旅の様子を読み解いていきました。

テキストとして取り上げた「紀の路御遊覧日記」は、第10代ト半了真(りょうしん)ら一行が、文政7(1824)年旧暦9月23日から29日にかけて(現在の10月下旬頃)、紀伊国北部を6泊7日で旅した記録です。講座では、その記録の冒頭部分「仮名序(かなじょ)」とされる旅の要約を読みました。この部分は、中国の故事とともに旅の情景が浮かんでくる描写がなされており、文章に引き込まれます。

受講者の方からは「ト半家の権威と組織の大きさを感じるとともに、旅日記を通してたいそうな行列だったと思った。道中の行程や苦しさを知るとともに、ト半家の家臣の教養の高さを知りました。文字や用語の解説が丁寧だと思った。」との声が寄せられました。

古文書講座 63 (通算 297 回～299 回) 開催のお知らせ

テーマ ぼっかんさん紀の路に行く 2

日 時 1 班 (水曜) 第 1 回 3 月 10 日、第 2 回 3 月 17 日、第 3 回 3 月 24 日
2 班 (金曜) 第 1 回 3 月 12 日、第 2 回 3 月 19 日、第 3 回 3 月 26 日
いずれも午後 1 時 15 分～3 時 45 分

会 場 貝塚市民図書館 2 階視聴覚室

定 員 各班 30 名

資料代 100 円

申 込 住所、氏名、電話番号を、Eメール・FAX・電話のいずれかで、下記まで事前にお申込みください。

連絡先 〒597-8585 貝塚市畠中 1 丁目 12-1 (貝塚市民図書館 2 階)

社会教育課郷土資料室 TEL 072 (433) 7205 / FAX 072 (433) 7053

Eメール shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp

文化財講座・セミナー・展示

◆ 3月 郷土 特別展「国宝孝恩寺観音堂（釘無堂）令和の大修理Ⅰ」

〈3月6日（土）～4月18日（日）〉

郷土 10日（水）・17日（水）・24日（水）13:15～15:45

古文書講座63 1班 「ぼっかんさん紀の路を行く2」

郷土 12日（金）・19日（金）・26日（金）13:15～15:45

古文書講座63 2班 「ぼっかんさん紀の路を行く2」

◆ 5月 郷土 「貝塚市の指定文化財」展 第1期〈5月15日（土）～6月27日（日）〉

※ 郷土：郷土資料室・郷土資料展示室

貝塚市歴史展示館（ふるさと知っとこ！館）企画展

期間延長

〈会期中の休館日〉
・ 毎火曜日
・ 3月20日（土）

「貝塚駅周辺のいま・むかし」3月31日（水）まで開催中

大型商業ビルが解体されるなど、南海貝塚駅周辺で目まぐるしい変化が見られる中、1950年代以後の移り変わりを写真パネルで紹介しています。

貝塚駅から望む貝塚中央商店街



昭和35（1960）年頃



令和2年9月頃

「東京オリンピックと貝塚2」4月8日（木）～9月6日（月）

次回展示

1964（昭和39）年の東京オリンピックを中心としたオリンピックの関係資料とともに、「東洋の魔女」ニチボー貝塚に関する写真や当時の聖火リレーの写真等をパネル展示で紹介しています。

〈会期中の休館日〉

毎火曜日

4月29日（木）、5月3日（月）、5月5日（水）

5月6日（木）、7月22日（木）、7月23日（金）

8月8日（日）、8月9日（月）

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、上記イベントは開催延期または中止となる場合があります。ご理解をお願い申し上げます。



かいづか文化財だよりテンプス73号



令和3年2月26日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1

Tel(072)433-7126 Fax(072)433-7053

Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年3回発行：各1,000部



貝塚市イメージ

キャラクター

つげさん

貝塚市特産品「つげ櫛」をモチーフとしたデザイン。